

## 「かがみで遊ぼう (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

小さなかがみ1枚だけでは、遊びも実験も種類に限られる。しかし、それが2枚、3枚となると、光学的にも遊びの幅が広がる。その様子を観察していると、「子どもはこんなことに興味を持つのか」と、教師のほうがおもしろくなってしまふ。



「かがみブック」

かがみを2枚向い合せにして、それを少しずつ離していくと、まるで本のページのようにたくさんのががみが発見される。「かがみの中に、またかがみがある!」と子どもはとても驚いた様子。



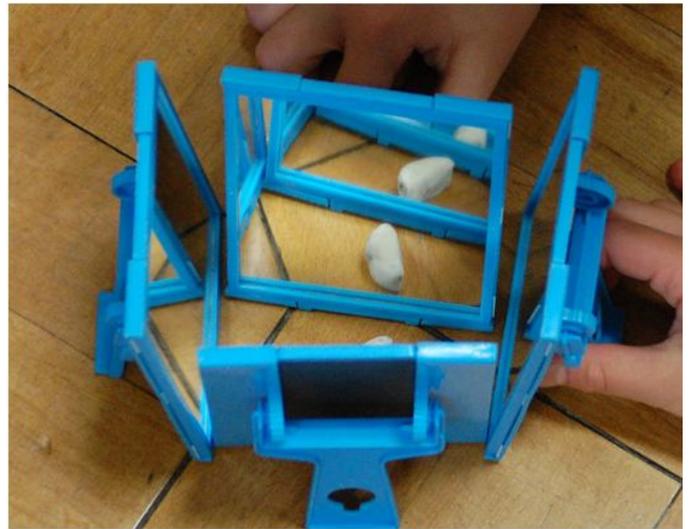
「魔法の三面鏡」

かがみを3枚組み合わせると、更に面白い。「うわー、消しゴムが一気に増えた!」となる。これは、万華鏡と似たような原理である。



「魔法の三面鏡進化バージョン」

かがみの角度をうまく調整すると、1個の消しゴムが見事に無限に増える。



「ドコにもかがみ」

かがみを4枚にすると、四方どこから見ても、無限に消しゴムが並んで見える。少しかがみを上に傾けて上から見ると面白い。実に楽しい活動だった。

子どものノートから

・「かがみの実けんは、すごくおもしろかったです。ケンゴムがどんどんふえて、とくした気分でした。」  
「こういう小さいかがみは家がないので、はじめて実けんした。かがみにかがみがうつって、そのかがみにまたかがみがうつって、どんどんうつる。」